



食品の有効活用を信頼のネットワークで円滑に

活動紹介

食品を扱う活動だからこそ、衛生管理とトレーサビリティの重要性を認識した活動を行っています。

衛生管理

食品の衛生管理、特に温度管理を徹底しています。冷凍食品は子育て世帯のニーズも高く、寄贈品としていただく機会も増えています。冷凍食品を安全に利用者へ届けるため、各フードパントリーや中間拠点には冷凍設備を整備し、利用者への配付の際も保冷剤や保冷ケースを活用しています。寄贈する企業、利用する世帯の安心を守るため、食品の衛生管理にしっかりと取り組んでいます。

トレーサビリティ

寄贈された食品が、いつ、どこに、どれだけ渡されたかを追跡できるように、記録を整理、保管しています。食品事故等が発生した場合の拡大防止と原因究明のために必要な情報管理で、そこにはフードパントリーの利用者の情報も含まれます。個人情報取り扱いという面からも、しっかりとした情報管理に努めています。フードパントリーの活動は、単に食品を配るだけでなく、こうした責任をきちんと果たすことが求められます。

当ネットワークは、主に子育て支援を目的としたフードパントリーのネットワークです。パントリーとは「食品庫」の意味ですが、フードパントリー活動とは、配付場所を決めて、利用者に来てもらうスタイルで食品を無料配付する活動をいいます。現在、76の団体がネットワークに加入し、子育て世帯への食品支援を行っています。

フードパントリーの活動は、支援を必要とする子育て世帯のニーズにマッチしており、そうした世帯への有効なアプローチの方法となっています。子どもの貧困は見えにくく、だからこそ、探し出して必要な支援につなげていきたいと思っています。



食品ロス削減のために

ネットワーク化の強みを生かす

ネットワークを組むことによって、企業などからの食品寄贈を受けやすくなりました。個別の団体への寄贈が難しい企業にとって、ネットワークへの寄贈はハードルが低く、寄贈しやすいようです。

企業から寄贈いただいた食品を皆で分け合っ利用するために、県内9か所に中間拠点を整備し、企業とネットワーク間、ネットワークと各パントリー間で合意書をつき、信用を基に寄贈いただける仕組みを作っています。

また、食品の配送に関しても、ネットワークを支援してくれる運送業者の協力を得て、個別の団体や中間拠点に食品を運んでいただく配送支援も行っています。

ネットワーク化し、食品の寄贈や配送支援を受けられることが、新たなフードパントリーの立ち上げや、活動の継続につながっています。



地域で自立したフードパントリーを目指す

フードパントリーは、地産地消型で行われることが望ましいと思っています。現在はフードバンクや企業からネットワークに寄贈された食品を遠くまで配送して活用していますが、将来的には「地元企業に地元子ども達を」ご支援いただき、各パントリーが地域で自立することでフードパントリーが持続可能な活動となると考えています。

そのため、各パントリーが活動地域の企業や団体、個人の方に支援を呼び掛けるツールとして、フードパントリーの活動を紹介したリーフレットなどを作成し、各パントリーに配布しています。



特定非営利活動法人 埼玉フードパントリーネットワークからのメッセージ

フードパントリーの活動は、支援を必要とする世帯への有効なアプローチ方法です。フードパントリーをきっかけに支援が必要な子育て世帯につながっていきたくと思っています。

新型コロナウイルス感染症の拡大など、先が見えない時代にあって、思いがけず生活基盤が揺らぐ家庭もあります。そうした中、フードパントリーの活動が社会的なインフラとして機能できれば、利用していない人々にとっても安心感につながるのではないかと考えています。将来的には、どこに住んでいても、困ったときにはフードパントリーを利用できる環境になればよいと思います。

そのために、より多くの人に活動を知っていただき、活動を支援していただきたいです。そして、できれば地域で活動する団体を応援していただき、地域で自立したフードパントリーが育っていきなればよいと思っています。